

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

【資料2-3】

機関名：徳島県 竹ヶ島自然再生協議会

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	水質関係事業所等監視指導 管路等施設の適切な維持管理により水質保全を図っている。(海陽町役場上下水道課)	集落排水事業、下水道事業、合併浄化槽事業などにより、海域の水質保全を保っている。
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	サンゴ群落保全に貢献するツーリズムの推進。「海洋自然博物館 マリンジャム」を通して、観光とレジャー施設として、地域住民だけでなく、観光客にも主体的に行ってもらおう体制を構築する。(徳島県竹ヶ島自然再生協議会・海陽町)	左記ツーリズムを推進させるため、海中観光船の運行、シーカヤック、シュノーケリングを行っている。また、夏場に行われるサンゴの産卵を通し、稚サンゴの展示や、産卵シーン映像の作成を行っている。平成28年度は博物館内に小型の水族館施設を作り、サンゴ群落周辺の生態系の展示も取り入れ始めた。平成30年度は、上記活動をサンゴ礁学会にてポスター発表し、活動の普及に努めたとともに、サンゴ群落生態系の観察会を町民向けに企画(悪天候にて中止)、また、町外からの参加希望者が多く見受けられたため、徳島県内外を対象にしたエコツーリズムの取り入れを図ることとした。今年度は、サンゴ産卵見学ツアーの実施(自然再生協議会の産卵データにてR元年度のサンゴの産卵を予測し、一般観察のツアーを実施。実施期間：7月30日、31日、8月1日)および、竹ヶ島海の生き物観察会(サンゴ群落周辺の海に生息する生き物を探し、生態を学ぶ。また、海での適した遊び方などのレクチャーを行い、海に親しみをもってもらおうための活動)を実施した。
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	普及啓発事業 地域社会におけるシンポジウムの主催と、自然再生協議会、竹ヶ島魅力化事業の設置	平成17年より設置された自然再生協議会で、町、漁協や学識者などと”エダミドリイシが健全に生き続けられる環境”を目標に有性生殖による種苗の作成などを行っている。また、平成28年度より、地域おこし協力隊による竹ヶ島魅力化事業を作成。町、漁協、学識者の間に入り、現在も活動中。また、シンポジウムなどの開催も行っている。H30年度は、町民向けなどにボランティアなどを募り、体験型活動の取り入れ、竹ヶ島に存在する分校を利用した研究施設の島民向けの活性化も検討した。今年度もシンポジウムを企画している。
2	人材育成事業 学識者におけるサンゴ学習教育と、有性生殖によるサンゴの移植活動、ワークショップの開催	竹ヶ島海域公園内に育成するサンゴを守るために、平成16年より地元小学生により左記活動を実施している。しかし、サンゴの移植活動に至っては、町内小学校1校のみ実施となっているため、今後、小学校だけでなく、中学校、一般等の拡大を図ることを予定としている。また、今年度は、観光客に対する島民の漁業説明ワークショップ(島民であり、元まぐろ漁師による漁やマグロの食べ方などについてなど)を開催した。
その他(※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。)		
1	サンゴ移植活動の拡大	平成30年度から取り組みを拡大していくため、移植種苗の作成方法の模索、また、拡大のための広報活動を実施中。地域を取り入れた学習活動などにも従事していくこととした。今年度は、サンゴの移植場所の拡大(旧宍喰町→海陽町全域に拡大)を図った。